

2026年度 文学部聴講生

講義要項

(教育学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2026.4 - 2027.3

科目名: 教育哲学

担当教員: 下司 晶

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 金3

配当年次: 1~3年次担当

科目ナンバー: LE-ED1-N201

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:54:5

更新者: AA2130

更新日時: 2026-01-08 23:29:3

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

みなさんは教育が好きですか？
教育に不満はありませんか？
当たり前ですが、教育には、良い面も悪い面もあります。
教育は人を成長させますが、成績で人を選別したり、理不尽なルールを押しついたりもします。
教育の良い面、悪い面。この両面から、教育について考えてみましょう。
そのために、近代の教育思想とポストモダン思想を手がかりにします。

科目目的

教育についての考え方(特に近代の教育思想と、ポストモダンの発想)の基礎を理解して、教育を考えることができるようになること。

到達目標

教育の良い面、悪い面の両面から、教育を深く考えることができるようになること。

授業計画と内容

授業計画と内容

- 第1回 不満があるから、教育を考える(教育学入門)
- 第2回 教育の「悪口」を言ってみる(近代教育学批判①)
- 第3回 そもそも、「教育」とは何だろうか(近代教育思想)
- 第4回 「子ども扱い」の良い面、悪い面(アリエス『〈子供〉の誕生』①)
- 第5回 今はもう「子ども時代」はない？(アリエス『〈子供〉の誕生』②)
- 第6回 学校なんかいらない？(イリイチ『脱学校の社会』①)
- 第7回 学校は人を選別する(イリイチ『脱学校の社会』②)
- 第8回 学校は軍隊だ(フーコー『監獄の誕生』①)
- 第9回 学校は監獄だ(フーコー『監獄の誕生』②)
- 第10回 教育は戦争の道具となる(戦前戦中の教育)
- 第11回 なぜ、西洋の教育の方が「よく」みえるのか？(戦後教育学①)
- 第12回 「本当の教育」とは何か(戦後教育学②)
- 第13回 もう一度、教育を前向きに考えてみる(近代教育学批判②)
- 第14回 あなたの理想の教育とは？

各回には、対応する思想・思想家やテキストがある。
詳細は授業で伝える。
受講者の状況や要望を踏まえて順序や内容を変更することがある。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	最終レポート。 授業の内容を踏まえて、教育を深く思考できているかどうか。
平常点	40%	毎回のコメント。 授業内容を理解できているかどうか。 理解できていないと判断した場合、「未提出」扱いにする。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

配慮すべき理由なしに、4回以上欠席した場合(コメント未提出の場合)、最終試験(レポート)の受験資格を失い、「F」評価となる。
なお、授業の進行によって、上記の評価の割合は変更される可能性がある。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト(授業・レポートで使用します)
下司 晶『増補改訂版 教育思想のポストモダン——近代批判のゆくえ』勁草書房,2026年。
必ず購入して、毎回持参すること。

参考文献

現代思想に関する基礎知識を得られる入門書が手元にあった方がよいでしょう。

例として、

千葉雅也『現代思想入門』講談社現代新書, 2022年

斎藤 哲也『試験に出る現代思想』NHK出版新, 2022年 など。

もちろん、他の本でもかまいません。

オフィスアワー

その他特記事項

- ①受講生の興味や理解度に応じて、毎回の内容や重点の置き方、順序などを変更する場合があります。
- ②新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したため、授業資料のmanabaへのアップや翌週以降のレジュメ配布はいたしません。欠席のために生じる理解の不足には対応できませんので、教科書や参考書などを用いて自習して下さい。

参考URL

備考

科目名： 教育史**担当教員： 高木 雅史**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 火5

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N202

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:5

更新者：AA1338

更新日時：2025-12-28 16:13:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、近代日本における学校教育の普及・拡大(特に就学率・進学率の上昇等にみられる量的拡大)の様相を踏まえたうえで、時期区分毎の質的変容の歴史的経過をたどる(必要に応じて近世も扱う)。学校教育の普及・拡大の様相は家族や地域社会(都市・農村)のあり方の変化とも大きく関係しており、それらの相互関連に留意しながら検討する。全体を通して、現代日本の教育のあり方を歴史的視点から浮かびあがらせ、今後の方向性を描き出したい。

科目目的

この授業は、近代日本における学校教育の普及・拡大の様相を理解し、今日の教育状況を分析するにあたって歴史的視点を踏まえて考察できるようになることを目的としている。

到達目標

今日の学校・家庭・地域における教育状況について、それらが関わり合いながら進展してきた様相を歴史的経緯を踏まえて説明できるようになること。

授業計画と内容

- 1 授業の目標と進め方について
- 2 1870～1880年代(1):近代学校教育の誕生
- 3 1870～1880年代(2):近世教育からの変化
- 4 1890年代:天皇制教育体制の確立
- 5 1900～1910年代前半:天皇制教育体制の展開
- 6 1910年代後半～20年代(1):都市新中間層・農村・都市スラムの子ども
- 7 1910年代後半～20年代(2):大正自由教育の興隆と展開
- 8 1930～40年代前半(1):戦時体制下の学校と子ども
- 9 1930～40年代前半(2):総力戦と教育
- 10 1940年代後半～50年代(1):戦後教育の発端
- 11 1940年代後半～50年代(2):戦後における新教育の実践
- 12 1960～70年代前半:高度経済成長の開始と教育の量的拡大
- 13 1970年代後半～90年代:高度経済成長後の「教育問題」への関心の高まり
- 14 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	75%	設定した問題について、授業内容を踏まえたうえで論理的に説明できるか。
レポート	0%	
平常点	25%	毎回のリアクションペーパーあるいはミニ課題に基づいて評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

(テキスト):片桐芳雄・木村元編著『教育から見る日本の社会と歴史(第2版)』八千代出版、2017年3月、2,400円(+税) [ISBN:978-4-8429-1698-9]

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育行政学**担当教員： 池田 賢市**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 月5

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N203

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:5

更新者：AA0532

更新日時：2025-11-17 19:39:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

教育行政の理解は、教育に関する法律の理解が前提となる。この授業では、教育基本法や学校教育法等の法令の内容を、具体的な事例と結び付けながら学習していく。4回程度、その授業時間内で書ける程度のテーマを出すので、それに簡単でよいので応えてもらう予定。その課題内容については、その都度指示する。また、授業時間内で2～3回、法令の内容理解についての確認テスト(10分程度でできるもの)を実施する予定。

科目目的

教育への権利は人間にとって基本的人権であることを理解し、その観点から具体的な教育課題をみていくことができること、また、学校を中心とした教育に関する行政について、印象論で語るのではなく、それが法令に基づいていることを理解していくことを目的とする。

到達目標

教育に関するさまざまな制度の存在意義やその問題点を、具体的な法令をあげながら説明できることを目指す。

授業計画と内容

- 1 インTRODクシヨン／テキスト・参考文献等の紹介
- 2 義務教育制度の歴史および憲法・教育基本法の意義
- 3 教育に関する国際条約の意義
- 4 義務・無償・中立の意義
- 5 義務教育の機会均等の考え方について
- 6 教育の政治的中立性および教科書行政について
- 7 公務員としての教員の地位
- 8 児童生徒の懲戒等について
- 9 保健・健康に関する規定
- 10 障害児の教育権と教育行政(インクルーシブ教育の課題を含む)
- 11 外国人児童生徒の教育保障
- 12 教育委員会制度の課題
- 13 諸外国の教育行政・政策(OECDの教育観を含む)
- 14 日本の教育改革の動向とまとめ
(なお、現実の教育改革の動き等によっては、順番を変更する可能性もある。)

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業では毎回、教育に関する具体的な法令を解説していく。扱う法令(条文)については、事前にmanabaで指示するので、当日の授業時間までに、必ず調べ、その条文を見ながら授業が受けられる状態にしておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 30% 法令の理解度について2～3回の確認テストを行う。

期末試験	50%	教育行政・制度の特徴を根拠づけている法令等を正しく指摘できるかどうか、期末試験を行う。
レポート	0%	
平常点	20%	4回程度、授業内容に関連したテーマを設定するので、それについての自分の考え等を書いてもらう。その提出状況と内容を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストおよび参考文献については、授業中に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 教育社会学

担当教員: 眞鍋 倫子

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 水3

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-ED1-N204

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:54:5

更新者: AA0619

更新日時: 2025-12-30 17:19:0

授業形式

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

教育は社会の中で、どのような役割を果たしているでしょうか。教育にかかわる問題はどのようにとらえたらよいでしょうか。教育社会学は、教育について、「当たり前」と思われていることを問い直し、その背景や成り立ち、役割といった様々な側面から「教育」をとらえていく学問です。この授業では、教育にかかわるさまざまな現象について、教育社会学の立場から理解することを目指します。

科目目的

現代の教育の役割や問題について、教育社会学ではそれらの役割や知識をどのようにとらえ、どのように研究がなされているかを理解します。

到達目標

学校教育のありかたや教育にかかわる問題について、教育社会学の見方や、概念、議論を理解し、実際にそれらを使って説明できるようになることを目標とします。

授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション: 教育社会学とは
- 第2回: 教育の機能
- 第3回: 教育の普及と拡大: 学校化社会
- 第4回: 教育の普及と拡大: 高学歴化
- 第4回: 教育を通じた選抜
- 第5回: 教育格差
- 第6回: 教育格差生成のメカニズム
- 第7回: 教育と家族・地域
- 第8回: 教育における知識とカリキュラム
- 第9回: 教師と生徒
- 第10回: 学校の問題: いじめ
- 第11回: 学校の問題: 不登校
- 第12回: 教育から社会への移行
- 第13回: 教育と社会的包摂
- 第14回: まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	なし
期末試験	50%	最終回のテスト
レポート	50%	manabaでの課題提出
平常点	0%	
その他	0%	なし

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaにて資料を配布します。
また、respnを用いて、授業中に関連する事柄についてアンケートを取ります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

(テキスト)配布資料を使用します。
(参考文献)
・相澤真一他 2023 『これからの教育社会学』有斐閣
・柳治男 2005 『学級の歴史学』講談社
・近藤博之・岩井八郎 2015 『教育の社会学』放送大学教材
その他、授業中に適宜提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

特になし

参考URL

備考

科目名： 教育方法学**担当教員： 濱谷 佳奈**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 木2

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-ED1-N205

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:54:5

更新者：AA2232

更新日時：2026-01-12 23:33:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業の前半では、教育方法の歴史的展開について、近代社会成立以降の欧米および日本における理論と実践を中心に検討する。後半では、教育方法学の今日的課題について、非認知能力と学習、インクルーシブ教育、学力格差の是正等の各側面から考察したうえで、探究的な学習活動のプランニングを行い、作品発表と相互検討をおこなう。

科目目的

本科目は、教育方法学に関する基礎的理解を深めることによって、教えることと学ぶことへの問いをめぐる理論的かつ実践的な考察を行うことを目的とする。
とりわけ、実際に探究的な学習活動のプランニングを行うことを通して、学習を支援する主体としての資質について検討する。

到達目標

1. 教育方法の歴史的展開を検討することによって、教育方法の基礎的概念を理解することができる。
2. 現代の教育方法をめぐる諸課題について問いをたて、多角的に検討することができる。
3. 探究的な学習活動のプランニングを通して、どうすれば質の高い学びを保障できるのかについて理解を深めることができる。

授業計画と内容

第1回:オリエンテーションー本授業のねらいと概要ー

第2回:授業の歴史1ーヨーロッパー

第3回:授業の歴史2ー日本ー

第4回:子ども観の歴史的変遷と教育方法

第5回:教えることと学ぶこと

第6回:非認知能力と学習

第7回:思考力・判断力・表現力の育成

第8回:教師に求められる力量

第9回:インクルーシブ教育の現状と課題

第10回:学力格差是正の取り組み

第11回:探究的な学習活動の意義と課題

第12回:探究的な学習活動のプランニング

第13回:探究的な学習活動プランの相互検討

第14回:総括ー教授学の新たなモデルをめぐって

【注意】

テーマの順番を入れ替える可能性があります。また、ひとつのテーマを複数回かけて行う場合があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ・毎回アクション・ペーパーの提出が必要となる。
- ・探究的な学習活動のプランニングにおいては、授業時間外の学修が必要となる。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	指定されたテーマについて最終レポートを提出する。テーマの理解ができているか。自己の考察の表現ができているか。資料を丁寧に読み取れているかを基準とする。 ※manabaにてデータ提出する。
平常点	30%	毎回のアクション・ペーパーおよび授業での発表・ディスカッションへの参加を評価する。
その他	40%	課題に基づいて「教材」「授業プラン」などの作品を作成する。制作物は、レポートとして提出するほか、授業で発表する。構想・制作・実演の丁寧さ、完成度、オリジナリティを評価する。 ※manabaにてデータ提出する。

成績評価の方法・基準(備考)

- ・すべての課題の評価を合計して60点以上が合格となります。ただし、「レポート」「平常点」「その他」の項目で、いずれか1つでも0点があった場合は、不合格となります。欠席回数が5回以上の場合には平常点が0点となります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを用いる。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

特に指定しない。プリントを適宜配布する。

【参考文献】

・奈須正裕 編著『ポスト・コロナショックの授業づくり』東洋館出版社、2020年。

・志水 宏吉 監修、ハヤシザキ カズヒコ・園山 大祐・Sim Choon Kiat 編著『世界のしんどい学校：東アジアとヨーロッパにみる学力格差是正の取り組み(シリーズ・学力格差 第4巻 国際編)』明石書店、2019年。

・ヒルベルト・マイヤー 著、原田信之 編訳『授業方法・技術と実践理念－授業構造の解明のために』北大路書房、2004年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：生涯教育論**担当教員：佐藤 智子**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水2

配当年次：1～3年次担当

科目ナンバー：LE-ED1-N206

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：AA2533

更新日時：2025-12-26 11:10:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、生涯学習の基本的な理論や考え方を学び、社会とかかわる学びのありようについて学修します。具体的には、皆さんなりの「学習」の捉え方を振り返り、社会的な状況の中で多様に構成されるコミュニケーションの観点から、「学習」とは何かについての理解を深めることを目的とします。そのために、受講生には、①社会における学習をどう考えるのか、②そのような学習がなぜ必要なのか、③そのような学習をどのように促し、支援するのか、という3点を考えてもらいます。

科目目的

生涯教育をめぐる理論的枠組みを理解した上で、現代の社会的な状況において、生涯における学習をどう認識し、どう実践していくのかについての見識を広げる。

到達目標

- (1) 現代社会における学習と教育の営みを、生涯にわたって捉える枠組みを獲得する。
- (2) 生涯教育の意義を基礎的な理論に基づいて適切に説明できる。
- (3) 生涯教育について、自らの理解を論理的に表現することができる。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アンドラゴジー
- 第3回 成人が学習する意義
- 第4回 学習動機
- 第5回 自己決定学習
- 第6回 学習資源としての経験
- 第7回 変容的学習
- 第8回 ナラティブ学習
- 第9回 身体化された学習
- 第10回 組織における学習
- 第11回 キャリア理論
- 第12回 社会関係資本
- 第13回 総括ディスカッション
- 第14回 期末試験、全体リフレクション

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 授業の到達目標に基づき、選択式テストや筆記試験を実施する。
レポート	0%
平常点	50% ・授業への参加状況 ・毎週の課題提出状況
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaやGoogle Workspaceを通じて、資料共有や課題の提示を行います。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

次のテキストを準備することを推奨します。
(やむを得ない事情で、どうしても購入が難しい場合は初回授業で相談してください。)

岩崎久美子『成人の発達と学習【改訂版】』放送大学教育振興会、2025年(ISBN:978-4595142185)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 発達教育学**担当教員： 下司 晶**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 金3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N301

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：AA2130

更新日時：2025-12-30 17:56:0

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、フロイトと精神分析の観点から、発達と人間形成について考えます。授業では、映画やアニメといった視聴覚教材の分析を通して、テキスト『フロイトと教育』に登場する精神分析の基礎概念を読み解いていきます。例えば、以下の用語です。トラウマとPTSD、エディプス・コンプレックス、アイデンティティ、愛着、転移、など。

科目目的

基礎的な発達理論を用いて、教育や人間形成について思考ができるようになること。特に、フロイト理論、精神分析理論を用いることができるようになること。

到達目標

フロイト派の精神分析理論をはじめとする、心に関する理論を用いて思考が出来るようになること。教育だけでなく、小説や映画、アニメなどを発達や人間形成という観点から「深読み」出来るようになること。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション－発達から教育を考えると
- 第2回 なぜフロイトを読むのか
- 第3回 トラウマとPTSD、そしてトラウマの克服
- 第4回 フロイト思想の全体像(概観)
- 第5回 父-母-子の関係－エディプス・コンプレックス
- 第6回 アイデンティティとモラトリアム－自我同一性の確立
- 第7回 転移性の愛－なぜ親に似た人を愛するのか？
- 第8回 ナルシシズム－自己愛は不可欠である
- 第9回 自分の心はどこまで集団の影響を受けているのか？
- 第10回 不気味なもの、気持ちが悪いもの、それはなぜ？
- 第11回 ヤマアラシのジレンマ－なぜ親しい者同士が傷つけあってしまうのか？
- 第12回 快感原則とその彼岸、死の欲動
- 第13回 未解決の問題としての教育
- 第14回 フロイトと教育(まとめ)

ただし、受講生の反応を見ながら、順序や内容を変更することがある。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	最終レポート。授業内容を理解して、自分なりに発展させることができているかどうか。
平常点	40%	毎回のコメントやミニレポートなど。 授業内容をきちんと理解しているかどうか。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

配慮すべき理由なしに4回以上休んだ場合、「F」評価とします。

授業の進行や学位性の受講状況によって、評価の割合は変化することがあります。
(ついでにいえば、平常点と最終レポートの出来は比例することが多いです。)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト

デボラ・P・ブリッツマン『フロイトと教育』下司 晶・須川公央(監訳), 勁草書房, 2022年
必ず購入すること(授業・レポートで用いる)

参考文献

小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』(講談社現代新書)講談社 2002年
他の本でもよいので、入門書は手元に置いておいた方がよい。

オフィスアワー

その他特記事項

- ①受講生の興味や理解度に応じて、毎回の内容や重点の置き方、順序などを変更する場合があります。
- ②新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したため、授業資料のmanabaへのアップや翌週以降にレジュメを配布はいたしません。欠席のために生じる理解の不足には対応できませんので、教科書や参考書などを用いて自習して下さい。

参考URL

備考

科目名： 比較教育社会史**担当教員： 高木 雅史**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N302

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：AA1338

更新日時：2025-12-28 16:14:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

教育という営みは、政治・経済・社会の幅広い領域にわたる社会事象と密接に結びついて成り立っている。よって、現代日本の教育のありようを理解するためには、さまざまな社会事象との関係に着目し、歴史的・社会的文脈のなかに位置づけて検討することが必要となる。この授業では、〈学歴主義の制度化と展開〉〈近代家族の誕生と変容〉〈生命科学の成立と進展〉という3つの社会的事象と教育との関係性について各々の歴史の変遷をたどり、適宜、諸外国と比較しながら、近代以降における日本の教育の特質を浮き彫りにしたい。

科目目的

この授業は、〈学歴主義の制度化と展開〉〈近代家族の誕生と変容〉〈生命科学の成立と進展〉という3つの社会的事象に関する考察を踏まえて、近代以降における教育の特質の歴史的变化を、広い視野から理解できるようになることを目的としている。

到達目標

〈学歴主義の制度化と展開〉〈近代家族の誕生と変容〉〈生命科学の成立と進展〉という3つの社会的事象に関する歴史的経緯を理解し、その相互関連を踏まえつつ、今後のあり方を展望できるようになること。

授業計画と内容

- 1 授業の目標と進め方について
- 2 学歴主義の制度化と展開(1):学歴主義の歴史①戦前
- 3 学歴主義の制度化と展開(2):学歴主義の歴史②戦後
- 4 学歴主義の制度化と展開(3):現代における大学教育の有効性
- 5 学歴主義の制度化と展開(4):フリーター・ニート対策(日本とイギリス)
- 6 近代家族の誕生と変容(1):少子化の歴史の変遷と現状/家族-学校関係の社会史①
- 7 近代家族の誕生と変容(2):家族-学校関係の社会史②高度経済成長以前
- 8 近代家族の誕生と変容(3):家族-学校関係の社会史③高度経済成長以後
- 9 近代家族の誕生と変容(4):就労・子育て支援(日本とデンマーク・フランス)
- 10 近代家族の誕生と変容(5):「三歳児神話」の受容にみる日本の特質と課題
- 11 生命科学の成立と進展(1):優生学の歴史と出生前診断(日本とイギリス・ドイツ)
- 12 生命科学の成立と進展(2):国民優生法から優生保護法・母体保護法へ
- 13 生命科学の成立と進展(3):生命科学の進展が教育にもたらす課題
- 14 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	80%	【客観問題】(穴埋め・選択肢等):50%(試験配点中の内訳) 評価基準:基礎的用語・概念・事実を理解しているか。 【論述問題】:50%(試験配点中の内訳) 評価基準:設定した問題について、授業内容を踏まえたうえで論理的に説明できるか。
レポート	0%	
平常点	20%	毎回のリアクションペーパーあるいはミニ課題(2回程度)に基づいて評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、配信する資料に基づいて授業を行う。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育制度学**担当教員： 池田 賢市**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 月5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N303

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：AA0532

更新日時：2025-11-17 19:45:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

学校制度を支えている原理および法規定について学習したうえで、今日的な制度問題について考えていく。また、国際的な教育情勢も学習の対象としていく。最終的には、自分の考える課題・問題に対応した教育改革案を提出してもらう。

科目目的

公教育制度は、教育の目的を実現するために、社会的に公認された(公の規定で定められた)組織(人と物との体系的な配置)である。この講義では、この定義を踏まえ、学校教育制度に主な焦点を当て、その法制およびさまざまな教育改革(案)について検討し、権利保障としての教育制度のあり方の今日の問題を明らかにしていく。

到達目標

- ・教育法の法体系について理解し、活用することができる
- ・各教育段階の学校制度の構成要素の概要を説明することができる
- ・現在の各教育段階の学校制度の状況について、歴史的観点から説明することができる
- ・学校体系及び系統の成立について歴史的に説明することができる
- ・学校体系の諸類型について歴史的に説明すると同時に、それぞれの特性を指摘することができる

授業計画と内容

- 1 教育制度の定義と考え方
- 2 義務教育制度の原理
- 3 学校体系(系統)構築の原理
- 4 学力をめぐる諸課題
- 5 義務教育制度の今日的課題(不登校問題、教育機会確保法の問題点を含む)
- 6 入試制度をめぐる問題
- 7 高等教育(大学等)制度の歴史と課題
- 8 特別支援教育の法制と歴史的検討及び国際比較(インクルーシブ教育を含む)
- 9 学習指導要領の変遷(含.道徳教育の教科化の課題)
- 10 校則の見直し問題と子どもの権利
- 11 教員養成制度の法制と課題
- 12 日本における教育改革(案)の検討
- 13 国際条約にみる教育制度上の課題
- 14 まとめ・到達度の確認

なお、その時々々の新聞報道等、実際の教育改革の動きも授業に組み入れていくので、上記の順番は変更することもある。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	教育制度に関する知識等、到達目標に達しているかどうかを確認する。この試験が60%の得点未満の場合には、平常点とレポートがすべて提出されていても、単位は認められない。
レポート	30%	期末に「私の教育改革案」というレポートを提出してもらう。書き方等については授業中に指示する。
平常点	20%	課題を4回程度出すので、その提出状況と内容の評価する。なお、提出は、授業時間内を原則とするが、課題によっては一週間以内にmanabaで提出という場合もある。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クlickカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:『学びの本質を解きほぐす』(池田賢市著、新泉社、2021年刊、2000円+税)

参考文献は随時授業時間内で紹介する。なお、次のものはあらかじめ参考文献として挙げておく。

『教育の法と制度』(藤井穂高編著、ミネルヴァ書房、2018年刊、2200円+税)。

オフィシアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 学校社会学**担当教員： 森 一平**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：金2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N304

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：AD0676

更新日時：2025-12-27 00:24:5

授業形式

基本的にすべての授業回を対面で実施する予定ですが、やむを得ない事情が生じた場合はオンライン(オンデマンド型)授業に切り替える場合があります。

履修条件・関連科目等

特に履修条件はありませんが、教職科目の「生徒指導と特別活動」、及び2025年度までの「教育学特講(2)」の内容と部分的に重なる内容となっておりますので、その点をご承知いただいたうえで受講ください。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、学校を社会的に観察・考察する。
講義前半では、学校を学校の社会的機能と、それを社会に実装した場合に生じる問題点を、日本の学校教育の現実に即して整理する。
講義後半ではその問題点のありうる解決策について考察するが、そのさい本講義では社会学のなかでも特にエスノメソロジー・会話分析の立場にたちながら、教室のコミュニケーションという最も局所的な現場から、上記問題を内在的に解決していく方途を探る。

科目目的

日本の学校教育と社会、及び両者の結びつきかたの現状と問題点、その解決策について、社会的に(特に後者についてはエスノメソロジー・会話分析の観点から)考察・説明する力の育成をめざします。

到達目標

- (1)日本の学校教育が抱える問題点を、社会的に説明できる。
- (2)日本の学校教育のあるべき姿を、あるべき社会との関連から説明できる。
- (3)さらに(2)について、特に教室のコミュニケーションのあるべき姿という観点から説明できる。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション:学校を社会学するとはどういうことか?
- 第2回 学校は何のためにあるのか?:学校の社会的機能と自己実現
- 第3回 学校の社会的機能(社会化/選別・配分)と能力主義
- 第4回 日本型能力主義の来歴と特殊性:成立史と国際比較
- 第5回 日本型能力主義の問題性:財と承認の偏頗分配と「教育」の空洞化
- 第6回 現代の学校の問題点:誰のための学校か?
- 第7回 教室コミュニケーションの解説に向けて:エスノメソロジー・会話分析の視点
- 第8回 教室コミュニケーションの基礎(1):発言の順番交替組織
- 第9回 教室コミュニケーションの基礎(2):行為の連鎖組織
- 第10回 教室コミュニケーションの基礎(3):トラブルの修復組織
- 第11回 教室コミュニケーションの応用(1):熟議型授業の構造
- 第12回 教室コミュニケーションの応用(2):どの子も承認される授業の構造
- 第13回 教室コミュニケーションの応用(3):「能力」の対話的脱構築
- 第14回 おわりに:学校と社会のつながりを再考する

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 全授業内容を対象範囲とした複数の論述問題の合計点に基づき評価します。
レポート	0%
平常点	50% 毎回の授業内容を踏まえた小課題の合計得点に基づき評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは特に指定しません。毎回の講義でレジュメや資料を配布し、また参考文献を提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

特になし。

参考URL

備考

科目名： 多文化教育学**担当教員： 由井 一成**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N305

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：AD2237

更新日時：2026-01-12 23:29:3

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本科目では、グローバル社会に生きる市民が習得すべきグローバル・シティズンシップ(地球市民性)について理解し、考察を深めるとともに、その育成方法について教育学や教育実践の角度から検討することを目的とする。なお、多文化社会が有する様々な葛藤や課題については、多文化主義を宣言した最初の国であるカナダを題材としつつ、具体的な理解を得るための解説を行う。

移民の国であるカナダに関しては、コミュニティ間で発生する様々な葛藤を乗り越え、多様性を受け入れる中で国家としての統一性を保っているという分析がされることがある。その一方で、民族的・文化的多様性は社会における分断を生み出すリスクをはらむものである。近年では先住民族に対する人権の保護や回復が国家的取り組みとして行われているが、そこに存在する課題は極めて複雑であり、根本的な解決が困難な状況となっている。そしてこれらの課題は、先住民族に関するものに限らず、あらゆるマイノリティに対しても当てはまる。多文化主義国家カナダにおいてさえも、すべての人々の権利保護や安全の保障が成り立っているとは言い難い。

本科目では、日本においても急速に展開する多文化社会の実態について、カナダが直面する葛藤から学び、多文化社会が抱える課題の解決に向けた方策を議論、検討することを通して、グローバル・シティズンとしての生き方やあり方について考察する。そして人々が有すべきグローバル・シティズンシップへの理解を深め、その資質を高めるための多文化教育のあり方について検討する。最終的には、授業内でのワークショップや討論などを通して、将来にわたり、課題を自分ごととして捉え社会に貢献するグローバル・シティズンとしての自覚を参加者自身が育むと同時に、ケーススタディや模擬授業を通して、グローバル・シティズンシップ教育の理論と実践について理解を深めることが期待される。

科目目的

グローバルな課題をジブンごととして捉え、その解決に向け、生涯にわたり主体的、積極的に取り組むアクティブ・グローバル・シティズンとしての資質を高めるとともに、その育成方法に関する理解を深める。

到達目標

受講生は、次のことができるようになる：

- ・社会的課題の解決に向けて主体的に参加・参画するグローバル・シティズンシップの概念について深く認識するとともに、教育活動を通してグローバル・シティズンシップを育成することの意義について理解を深める
- ・グローバル社会における葛藤の現実とその調和に向けた取り組みについて、カナダの人々やカナダ社会に焦点を当てつつ考察する
- ・教育現場における国際化や多文化化の実態と、そこで直面する様々な問題について、多角的に分析し理解を深める
- ・教育現場におけるグローバル・シティズンシップ教育のあり方について検討する

授業計画と内容

- 第1回オリエンテーション～アイデンティティ・ワークショップ
多文化教育、グローバル・シティズンシップ教育とは：“Think Globally, Act Locally”
- 第2回多文化教育の意義：なぜ、今、グローバル・シティズンシップ教育か？(学習指導要領の分析)
- 第3回カナディアン・スタディーズ：先住民族と入植者の歴史
- 第4回ナショナルアイデンティティ vs エスニックアイデンティ(ディベート：両者の葛藤と共生の可能性)
- 第5回グローバル社会と多文化共生：多文化主義国家カナダが直面する課題と葛藤(ロールプレイ “Fascinating Festival”)
- 第6回マイノリティに対する包摂性：「好意的無視」への批判(ロールプレイ “Anger of Minorities”)
- 第7回集団的多様性と個人的多様性：(ワークショップ “Personal History Graph”)
- 第8回ケーススタディ「教室の中の国際化・多文化化」
- 第9回ケーススタディ「日本社会の国際化・多文化化」
- 第10回多文化共生社会を生きる①：目指す社会の創造(ワークショップ：Shared Vision)
- 第11回多文化共生社会を生きる②：社会的課題とその解決に向けて(ワークショップ：Paths to Multiculturalism)
- 第12回学生による社会貢献プログラムの発表①：Group A & Group B
- 第13回学生による社会貢献プログラムの発表②：Group C & Group D
- 第14回授業全体のまとめとふり振り返り：グローバル・シティズンとしての未来像

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

事前学習として2時間、授業内で紹介する参考文献を精読することが望ましい。事後学習としては、最終的な発表やレポートの作成に向けて、1時間程度で、意見をまとめておくことが望ましい。

本科目では、履修者自身の興味や関心に応じ、最終的には自身が今後取り組む教育実践について多様な角度から検討する。したがって、毎回の授業におけるディスカッションの蓄積が重要となる。授業間において前時のディスカッションを振り返り、そこで発見した課題意識を自ら掘り下げ、必要に応じて文献等を参照し、探究を深めていくことが期待される。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	20%	学生自身が設定した研究課題について、授業における学習内容に基づき深い考察がなされているかを評価する
平常点	60%	授業内ワークショップやディスカッションへの参加・寄与度合い、毎回の授業における振り返り活動などを総合的に判断する
その他	20%	プレゼンテーションの質および内容について総合的に判断する

成績評価の方法・基準(備考)

レポートが未提出の場合、または模擬授業に寄与しなかった場合は、自動的にEまたはF判定となる。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

ストーリー・ベースド・ラーニング
ダイアログ

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

オンラインツールを用いた双方向型の活動を行う。受講生はパソコン・タブレット・スマホを頻繁に用いる必要がある。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

高等学校において11年間専任教諭として勤務した経験が有し、国際協力委員会を6年間(うち4年間は委員長を)担当した

実務経験に関連する授業内容

教育現場の実践に即した具体的な内容(ケーススタディ)を解説する。

テキスト・参考文献等

テキスト: 指定しない

参考文献:

- ・藤原孝章著『新版シミュレーション教材「ひょうたん島問題」－多文化共生社会ニッポンの学習課題－』明石書店、2021、ISBN 978-4750351551
- ・長沼 豊 / 大久保 正弘 編著、バーナード・クリックほか著、鈴木崇弘 / 由井一成 訳『社会を変える教育 Citizenship Education ～英国のシティズンシップ教育とクリック・レポートから～』、キーステージ21、2012、ISBN 978-4-904933-01-5
- ・Davies, Ian. (2011). "100+ Ideas for Teaching Citizenship (Continuum One Hundreds)".
- ・Truth and Reconciliation Commission of Canada. (2015). "Truth and Reconciliation Commission of Canada: Calls to Action".

※履修者の興味関心に応じ、適宜授業内で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：キャリア教育論**担当教員：眞鍋 倫子**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N306

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：AA0619

更新日時：2026-01-01 16:58:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、若者をとりまく社会状況や労働市場の変化と、日本におけるキャリア教育政策とを照らし合わせることで、現状のキャリア教育やキャリア形成支援の特質と課題を議論します。
さらに、学校その他の場における実践や、関連する議論や政策的動向などについても紹介します。
これらの議論を通して、若者が社会の一員として生きていくために必要なキャリア教育・キャリア形成支援とはなにか、再考します。
授業計画として下記の内容を考えていますが、受講性の問題関心に対応して若干変更する場合があります。

科目目的

キャリア教育について、背景や政策、実践までを把握しつつ、その課題を理解する

到達目標

キャリア教育の背景を理解し、制度や実践を整理し、自身の考えを述べられるようになる。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション “キャリア”とは何か
- 第2回：社会の変化と若者のキャリア(1)技術の発展
- 第3回：社会の変化と若者のキャリア(2)グローバル化
- 第4回：社会の変化と若者のキャリア(3)脱工業化社会
- 第5回：日本の労働市場(1)メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用
- 第6回：日本の労働市場(2)新規学卒一括採用の歴史と課題
- 第7回：日本の労働市場(3)非正規化と初期キャリアにおける困難
- 第8回：日本におけるキャリア教育：生徒指導・進路指導の変遷
- 第9回：日本におけるキャリア教育政策の展開
- 第10回：日本におけるキャリア教育の実践
- 第11回：キャリア教育の国際比較①アメリカ・イギリス
- 第12回：キャリア教育の国際比較②フランス・ドイツ
- 第13回：日本のキャリア教育の特徴と課題
- 第14回：まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業中に提示した課題および授業へのコメントを提出してもらいます。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 最終レポート

平常点 60% 毎回の課題と授業へのコメント
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
 - ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

responを使って、授業の内容に関わって各自の経験や授業の内容についてのアンケートを実施し、その場でフィードバックを行う。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaにて資料配布や課題提出を求めます。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業中に提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 社会教育概論(1)

担当教員: 眞鍋 倫子

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 火4

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-ED2-N401

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:4

更新者: AA0619

更新日時: 2025-11-21 10:54:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

生涯学習における社会教育と、社会教育行政の役割について基礎的な理解を得るとともに、さまざまな施設の特徴と施設における実践を取り上げて紹介する。

科目目的

社会教育の歴史的展開および法制・財政の点から現在の社会教育の状況を理解する

到達目標

社会教育の歴史および政策的展開を理解する。実践の背景にある制度の問題などの基礎を理解し、自身の考えを述べられるようになる。

授業計画と内容

- 第1回: ガイダンス・社会教育とは
- 第2回: 社会教育の歴史
- 第3回: 社会教育の法制度(1)
- 第4回: 社会教育の法制度(2)
- 第5回: 社会教育計画・行財政
- 第6回: 社会教育施設の役割と課題①公民館
- 第7回: 社会教育施設の役割と課題②図書館
- 第8回: 社会教育施設の役割と課題③博物館
- 第9回: 発達段階と学習支援 成人の学習支援を理解する
- 第10回: 社会教育の課題①生涯学習政策への転換
- 第11回: 社会教育の課題②デジタル社会と社会教育
- 第12回: 社会教育の課題③家庭・学校との連携
- 第13回: 社会教育の課題④社会教育職員問題
- 第14回: まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

施設への訪問レポートおよび毎回の授業から課題を提示します。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	60% 最終レポートおよび施設レポート
平常点	40% 授業中の課題や授業へのコメント

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

responを通じて、受講生に制度や施設の認知や経験、予想、学習の成果などについてアンケート調査を行い、授業に反映させている。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業中に課題を提示し、manabaを通じて提出を行う。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業中に提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 社会教育概論(2)**担当教員： 金 亨善**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 水2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N402

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：XEC610

更新日時：2026-01-11 16:16:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、社会や地域コミュニティにおける学び、あるいは様々な社会問題に挑むための学びがどのような制度や基盤の上に成立しているのかについて学修する。社会教育は概念的に学校教育と区別されるが、実態として両者は密接に絡み合い、特に近年は学校と地域社会との連携・協働も求められている。そこで、学校の正規の教育課程の外で営まれている学びの多様なあり方を理解し、社会教育に対する理解を深める。

科目目的

社会教育を取り巻く現代的な状況を具体的に把握し、社会教育のあるべき姿やそれを支える制度的条件について理解する。

到達目標

- ①様々な場面で行われる教育の営みを、社会的な視点から捉える枠組みを獲得する。
- ②社会教育の制度や基盤についての基本的な知識を習得し、その概要を説明できる。
- ③これからの社会教育がどうあるべきかについて、自らの理解に基づき、論理的に表現することができる。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本の公教育の現状と課題
- 第3回 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動
- 第4回 学校統廃合と、持続可能な学校教育・社会教育体制
- 第5回 子どもの貧困問題と市民活動
- 第6回 地域づくりに果たす社会教育施設の役割
- 第7回 地方創生・地域づくりの政策と住民自治組織の役割
- 第8回 地域に貢献する大学
- 第9回 非営利セクターによる社会課題の解決
- 第10回 コミュニティにおける対話と学習環境デザイン
- 第11回 住民主体で進める居場所のデザイン
- 第12回 住民主体のまちづくりのプロセスとデザイン
- 第13回 地域社会における「つながり」のデザイン
- 第14回 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	・授業の到達目標に基づき、筆記試験を実施する。 筆記試験には手書きのノート類のみ持ち込み可。
レポート	0%	
平常点	50%	・授業への参加状況 ・毎週の課題提出状況
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

次のテキストを、第2回講義までに準備すること。
荻野亮吾・丹間康仁編『地域教育経営論—学び続けられる地域社会のデザイン—』大学教育出版、2022年 (ISBN:978-4-86692-223-2)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：教育思想史**担当教員：尾崎 博美**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：金4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N403

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：

更新日時：

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、教育思想史の基礎的な知識を復習しつつ、近代批判(あるいはポストモダニズム)以降の枠組みを用いて教育についての理解を深めていくことを目的としています。ルソーやフーコーといったフランス思想史の大物を主軸としつつも、幅広く教育思想史(研究)に影響を与えた思想や学説を取り上げていく予定です。教育思想史そのものを学ぶというよりも、教育思想史をどのように見るのかという(視点)を得ることを目指しています。そのため、前提として教育原理の基礎知識を身につけていることが好ましいですが、授業内でも近代教育思想史の復習を行う予定ですのでご安心ください。フーコーやデリダといったスター哲学者を扱う予定なので、幅広く、思想や哲学に興味がある方の受講も歓迎です(ただし、あくまで近代教育思想史の基礎を身につけることを前提としています)。

科目目的

教育思想史の方法について理解するとともに、現代の教育思想の歴史的基盤を相対化することができる。

到達目標

- 1)教育思想史の意義と方法について理解している。
- 2)現代の教育課題について教育思想史の方法で考察することができる。

授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション:「モダンとポストモダン」
- 第2回 アリエス『〈子供〉の誕生』
- 第3回 デリダ:声と文字
- 第4回 アレント1:「悪の凡庸さ」について
- 第5回 アレント2:『人間の条件』『教育の危機』
- 第6回 新教育運動:デューイとベルクソン
- 第7回 フロイト・ニーチェ:言語論的転回へ
- 第8回 ハイデガーとアレント:私と公共性
- 第9回 新教育以後の教育思想について
- 第10回 フーコー1『言葉と物』まで
- 第11回 フーコー2『監獄の誕生』以降
- 第12回 デリダとドゥルーズ:脱構築と生命
- 第13回 ランシエール『無知な教師』
- 第14回 ポストモダンの教育思想

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	70% 学期末レポート
平常点	30% 毎授業時に提出するリアクションペーパーの内容
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト: 下司晶(2016)『ポストモダンの教育思想』勁草書房。
 間篠剛留編(2025)『教育と出会いなおすための教育思想』教育開発出版。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育課程論**担当教員： 濱谷 佳奈**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：木2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N404

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：AA2232

更新日時：2026-01-12 23:37:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

学校における教育課程の理論、及び教育課程の一領域である「総合的な学習の時間」の実践について解説するとともに、実際に指導計画作成の演習を行う。

科目目的

学校における教育課程の意義と編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について講義を通して理解するとともに、教育課程の一領域である「総合的な学習の時間」の指導計画作成の演習を通してカリキュラム開発の基礎的能力を養う。

到達目標

学校の教育課程意義や編成方法について理解し、「総合的な学習の時間」の指導計画が作成できるようになる。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーションー教育課程とは何か
- 第2回：教育課程編成の原理
- 第3回：学習指導要領の変遷と特色ー経験主義・児童中心主義の時代
- 第4回：学習指導要領の変遷と特色ー系統主義カリキュラムからゆとりの時代へ
- 第5回：新学習指導要領と資質・能力の育成
- 第6回：非認知能力の育成
- 第7回：ポスト世俗化社会における宗教教育
- 第8回：市民性の育成
- 第9回：多文化教育
- 第10回：「総合的な学習の時間」の意義と先駆的实践
- 第11回：「総合的な学習の時間」の指導計画の作成の演習
- 第12回：作成した「総合的な学習の時間」の指導計画の発表と相互検討
- 第13回：学校教育の多様化と教育課程
- 第14回：まとめー教育課程改革と未来の学校

【注意】

テーマの順番を入れ替える可能性があります。また、ひとつのテーマを複数回かけて行う場合があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

日ごろから国内外の教育課程に関連する新聞記事や書籍を読んでおくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%

レポート	30%	指定されたテーマについて最終レポートを提出する。テーマの理解ができているか、自己の考察の表現ができているか。資料を丁寧に読み取れているかを基準とする。 ※manabaにてデータ提出する。
平常点	30%	毎回のリアクション・ペーパーおよび授業での発表・ディスカッションへの参加を評価する。
その他	40%	・「総合的な学習(探究)の時間」の指導計画の作成内容の完成度とオリジナリティを評価する。 ※manabaにてデータ提出する。

成績評価の方法・基準(備考)

・すべての課題の評価を合計して60点以上が合格となります。ただし、「レポート」「平常点」「その他」の項目で、いずれか1つでも0点があった場合は、不合格となります。欠席回数が5回以上の場合には平常点が0点になります。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
 - ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

「総合的な学習の時間」の指導計画の作成

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを用いる。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
特に指定しない。適宜プリント資料を配布する。

<参考文献>

1. 奈須正裕・坂野慎二編著『教育課程編成論』玉川大学出版部、2019年
2. 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東山書房、2018年

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 特別支援教育論**担当教員： 内藤 千尋**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：木3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N405

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：AD1443

更新日時：2026-01-05 22:00:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、特別支援教育および特別ニーズ教育の現状と課題について、対象の理解、本人・当事者のニーズに沿った教育や支援等に関する講義を行います。本講義を通して、各種障害に限らず特別な教育的支援を必要とする子どもの教育的ニーズを把握し、教育・支援のあり方を検討します。

科目目的

特別支援教育・特別ニーズ教育に必要な障害特性等の理解・支援方法を学びます

到達目標

発達障害や特別な教育的支援を必要とする子どもと教育・支援について、基礎的な知識や当事者の支援ニーズに基づく教育・支援を理解することを目標とします。

授業計画と内容

- 1 多様な教育的ニーズを有する子どもと特別支援教育・特別ニーズ教育【授業概要説明】
- 2 子どもの発達と障害
- 3 特別支援教育制度の変遷
- 4 障害の理解と教育① 知的障害
- 5 障害の理解と教育② 発達障害(1)
- 6 障害の理解と教育③ 発達障害(2)
- 7 発達上の困難・課題と支援 感覚情報統合の困難・身体症状
- 8 学校教育における特別支援教育の役割と課題① 特別支援学校・特別支援学級
- 9 学校教育における特別支援教育の役割と課題② 通級による指導・通常学級
- 10 学校教育における特別支援教育の役割と課題③ 教育的支援と福祉的支援の連携
- 11 特別支援教育・特別ニーズ教育に係る諸課題① 子どもの被虐待等の発達困難と支援
- 12 特別支援教育・特別ニーズ教育に係る諸課題② 子ども・若者の「非行」等の発達困難と支援
- 13 諸外国における特別支援教育・特別ニーズ教育
- 14 特別支援教育・特別ニーズ教育の課題【まとめ】

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定したレジュメ等を事前に読み込む。授業後には復習、指示された課題に取り組む。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | |
|------|----|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |

レポート	80%	期末レポートの提出と内容
平常点	20%	授業への参加・受講態度
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

成績評価の要件:3分の2以上の出席(授業参加)があること

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特に定めない。講義において必要な資料等を提示する
 参考書 高橋智・加瀬進監修/日本特別ニーズ教育学会編 『現代の特別ニーズ教育』文理閣 2020年
 そのほか参考となる文献・資料等については講義において随時紹介する

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育法**担当教員： 葛西 耕介**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 金3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N406

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：AD0971

更新日時：2026-01-10 09:52:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「教育法」(Education Law)とは、教育制度に関する固有の法である。そして教育法学は、教育に関わって、人格的生存を不可能にする国家権力の介入を禁じ、逆に人格的生存を可能にする国家権力の積極的発動を促す法規範を追究する学問領域である。本授業は、こうした教育法・教育法学を、法学部ではなく、文学部で開講されているという点を意識しつつ、その全体像をつかもうとするものである。

科目目的

本授業は、教育法令の理解とともに、特殊法としての教育法の基本的な論点について、これまでどのような(裁)判例・学説が蓄積され、現在どのような到達点にあるのかを理解することを通じて、教育法的視角から事象を分析できるようになることを目的とする。

到達目標

1. 教育法の基礎概念について、具体的場面とともに説明できる
2. ケースに応じて、問われている基本原理や基本的論点を特定できる
3. 基本的論点について、(裁)判例・学説の到達点を踏まえたうえで、自身の立場を根拠とともに説明できる

授業計画と内容

- 1 ガイドンスー教育法の全体像
- 2 旭川学力テスト事件最高裁判決(1)概要をつかむ
- 3 旭川学力テスト事件最高裁判決(2)精読する
- 4 教育法の基本原理(1)子どもの学習権、および(2)子どもの教育を受ける権利と国の学校制度整備義務
- 5 教育法の基本原理(3)親や子どもの公教育内容の一部拒否権
- 6 教育法の基本原理(4)親や子どもの参加権と教師の教育の自由
- 7 中間まとめ
- 8 自主性擁護的教育法(1)国の教育内容統制権能の限界
- 9 自主性擁護的教育法(2)教師の身分の特殊性
- 10 条件整備的教育法(1)国の教育制度整備義務と条件整備基準、財政移転制度
- 11 条件整備的教育法(2)教育行政の一般行政からの独立
- 12 教育是正的教育法(1)校則裁判、体罰裁判
- 13 教育是正的教育法(2)いじめ裁判、学校事故裁判
- 14 まとめ—再び教育法の全体像

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業前には、事前に示された検討事例・(裁)判例、課題文献の準備をすること。
授業後には、コメントペーパーを提出すること。また、参考文献やウェブサイトにあたること。
授業前の準備の方に時間を割いてほしい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 事前に評価基準と、レポートの例を示す。
平常点	70% コメントペーパーの提出。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

コメントペーパーへの応答を行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

小グループに分けたうえでのディスカッションをほぼ毎回行う。

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:

特に使用せず、スライド資料等を配布する。

参考文献:

授業内で示すが、さしあたり、以下の文献。

姉崎洋一(ほか)『ガイドブック教育法[改訂版]』(三省堂、2015年)

荒牧重人(ほか)編『新基本法コンメンタル 教育関係法』(日本評論社、2015年)

葛西耕介『学校運営と父母参加: 対抗する《公共性》と学説の展開』(東京大学出版会、2023年)

勝野正章(ほか)編集『教育小六法 2025年版』(学陽書房、2025年)

兼子仁『教育法(新版)』(有斐閣、1978年)

兼子仁編『教育判例百選(第三版)』(有斐閣、1992年)

日本教育法学会編『コンメンタル教育基本法』(学陽書房、2021年)

日本教育法学会編『現代教育法の争点』(法律文化社、2014年)

堀尾輝久『現代教育の思想と構造』(岩波書店、1971年)

日本教育法学会編『日本教育法学会年報』(有斐閣)各号

『季刊教育法』(エイデル研究所)各巻

オフィスアワー

その他特記事項

学問は、先行する学的営為の蓄積に己の小ささを自覚して、その蓄積に謙虚に耳を傾ける作業である。自身の経験を基礎に「自由」に語られがちな教育学とは異なり、法学にはそうした作法がより一層求められる。受講に際して教育学の深い知識も法学の深い知識も求めないが、特殊法としての教育法を学ぶことは、法学を学ぶ者にとっては「法」の理解を「教育」を媒介にしてより深め、教育学を学ぶ者にとっては「(学校)教育」の理解を「法」を媒介にしてより深めるであろう。
なお、憲法学ないし法学概論を履修していることが望ましい。

参考URL

https://researchmap.jp/kasai_kosuke/

備考

科目名： 国際比較教育学**担当教員： 須藤 玲**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限： 木5

配当年次：2～4年次担当

科目ナンバー：LE-ED2-N407

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：XEC618

更新日時：2026-02-03 09:24:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、国際比較教育学の目的・発展経緯・理論・方法について講義形式で概観しつつ、具体的なテーマや事例を題材とした議論(グループディスカッション等)も積極的に取り入れた授業を行う。講義内で扱うテーマについては、各履修者の興味関心に合わせつつ、欧米地域だけでなくアジア地域やアフリカ地域など、できるだけ多くの国や地域を網羅し、様々な状況下にある国内外の教育事象を取り上げる。

科目目的

本講義のねらいは、国際比較教育学の目的・発展経緯・理論・方法について理解することにある。本講義の目標は、以下の3点である。

- 1.国際比較教育学の目的や理論、方法論について説明できる。
- 2.国際比較教育学の現状と課題について説明できる。
- 3.国際比較教育学を学ぶ意義について自分なりに説明できる。

到達目標

本講義を通じて、各国の「教育情報通」を超え、日本を含めた世界各国が直面する教育事象や教育課題について批判的に考察し、議論できる力を習得することに力を置く。以上の目的は、文学部のディプロマポリシーの中でも、特に「複眼的に思考し、多様な社会に柔軟に対応することができる」、「相手の考えを理解することができる」との関連性の中に位置づくものといえます。

授業計画と内容

- 第1回オリエンテーション
- 第2回国際比較教育学の目的
- 第3回国際比較教育学の発展経緯と理論
- 第4回国際比較教育学のデータ
- 第5回国際比較教育学の方法
- 第6回事例検討：世界の学力問題
- 第7回事例検討：教員養成・免許制度と教師教育
- 第8回事例検討：途上国世界の教育における視点
- 第9回事例検討：国際教育開発と国際教育協力①
- 第10回事例検討：国際教育開発と国際教育協力②
- 第11回事例検討：日本による国際教育協力
- 第12回事例検討：複雑化する教育課題①
- 第13回事例検討：複雑化する教育課題②
- 第14回授業の総括、国際比較教育学研究の意義・役割の再考

※必要に応じて順番を入れ替える可能性があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講師は授業内にて参考文献・資料を提示する。受講者は各自参照し、各回の内容の理解を深める。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	68% ①小レポート(28%) ・実施回数:4回(各7%の割合) ・指定の授業回の終了後に、特定のレポート課題(A4, 1枚程度)を課します。その課題の提出状況と内容の適切さ(お題にきちんと応答して考察しているか等)を基準とします。 ②期末レポート(40%) ・実施回数:1回のみ ・最終授業終了後に、特定の内容に関するレポート課題(A4, 3枚程度)を課します。その課題の提出状況と内容の適切さ(お題にきちんと応答して考察しているか等)を基準とします。
平常点	32% リアクションペーパー(32%) ・実施回数:8回(各4%の割合) ・毎回の授業で、原則としてその回のテーマに即した課題(コメントシートの作成・提出)を課します。その課題の提出状況と内容の適切さ(お題にきちんと応答して考察しているか等)を基準とします。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

毎回の課題に関する詳細や、受験資格を含めた試験の詳細については、初回授業にてお示しします。
また、期末レポートの提出は、単位取得における必要条件といたします(レポートと平常点のみでは、単位は認定いたしません)。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

リアクション・ペーパーについては、授業時間内にフィードバックを行います。
小レポートについては、manabaでフィードバックを行います。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

各授業内にて、グループディスカッション等を取り入れるため、受講者の積極的な参加を歓迎いたします。
また、自由闊達な議論が行えるように、講師もその場づくりに努めます。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

課題の提出や関連情報の提示等にかかり、manabaを使用して進める可能性があります。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

2018年10月～2021年9月および2022年5月～2023年12月、国際協力機構(JICA)緒方貞子平和開発研究所に勤務(日本の国際協力に係る研究案件に従事)。
2022年5月～2022年10月、国連教育科学文化機関(UNESCO)アジア太平洋教育局に勤務(Inclusive and Quality Educationセクションにて

国際教育開発業務に従事)。

実務経験に関連する授業内容

国際協力機構(JICA)および国連教育科学文化機関(UNESCO)での国際開発および国際教育開発に係る実務経験を踏まえて、国際比較教育学の実際(第9回～13回の事例検討回)について講義いたします。

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、授業担当者が作成する配布資料をもとに授業を進めます。
参考文献は以下の通りです。これ以外の資料等については、必要に応じて授業内でお示しします。

- ・杉本均、南部広孝(2019)『比較教育学原論』、共同出版。
- ・ロバート・F・アーノブ、カルロス・アルベルト・トーレス、ステイーヴン・フランツ(編著)、大塚豊(訳)(2014)『21世紀の比較教育学ーグローバルとローカルの弁証法』、福村出版。
- ・マーク・プレイ、ボブ・アダムソン、マーク・メイソン(2011)『比較教育研究:何をどう比較するか』、上智大学出版。
- ・馬越徹(2007)『比較教育学ー越境のレッスンー』東信堂。

オフィスアワー

その他特記事項

「比較する」という行為は、日常生活において様々な場面で使われています。また、PISAといった学力調査に代表されるように、現代の教育においても「比較」という手法は多用されています。しかし「比較」とは何か、「比較」を行う上で注意すべき点は何でしょうか。本講義では、教育学の一領域である「国際比較教育学」から「比較」の意義について考えます。講義は、理論的な学びだけでなく、受講者の興味関心に合わせた内容や、講師のこれまでの国際比較教育学研究を通して得た資料や情報を盛り込むように設計されています。また本講義は、「比較」を通して教育を客観的に見つめてみたい、広い視点から教育を相対的に捉えてみたいと考える学生(初学者を含む)を広く歓迎いたします。

参考URL

備考

科目名：教育学特講(1)**担当教員：井狩 芳子**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：木4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N408

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:4

更新者：AD2020

更新日時：2025-12-03 10:22:1

授業形式

- ・講義式授業と、
- ・演習形式の授業を数回実施

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

わが国に在住する未就学(小学校入学前)のほぼ全ての子どもは養育を受けながら、幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設で保育を受ける。「養育や保育」に欠かすことのできない視点として「あそび」が挙げられるが、本科目では、この「あそび」をキーワードにしなが、子ども達の成長・発達の特徴や保育内容を紹介し、さらに、私達(おとな)が生きていく際にも、あそびの要素が不可欠であることについて考えていただく機会としたい。

導入として、わが国の「保育」の基本原理解である、「遊び・休息の保障」「環境の保障」「個に応じた生活の保障」について、「子どもの権利条約」を踏まえ、映像資料等を活用しながら理解を深める。

中盤には、ヒトの成長にとっての「土台」となる発達の視点について理解をする。理解を深めることを目途に演習授業も実施したい。加えて、保育園・幼稚園・幼保連携型こども園の概要把握と、子育て支援／保護者支援の視点についても触れる。

これらの学習をとおして、自分自身の乳幼児期に受けた養育や保育に思いを馳せながら、ヒトとしての根幹部分を形成することになるであろう保育(教育)・養護について考えたい。

科目目的

就学前の子ども達の「今の姿」についてトピック的に取り上げながら、就学前後の時期の子どもたちの姿とその育ちを支える保育制度や仕組みを理解する。さらに、保育者や園の社会的役割について、その実践的な「営み」がどのように実施されているのかを、ワーク等も経験しながら理解を深める。

なお、本科目は、「子ども(の成長・発達)と保育」、さらに、「あそび」というキーワードをとおして、人間とはどのような生き物なのか…について思いを馳せることを楽しみたいと思います。したがって、このような内容に興味のある学生さんならば、「教育学専攻」の在籍者に限らず大いに歓迎します。

到達目標

受講者は、まず最初に就学前の子ども達の発達の特徴・心身の特徴(環境に圍繞されざるを得ない存在としての「子ども」・「育つ」当事者としての「子ども」)を知り、当事者である子どもについて理解する。

中盤には、その支え手である保育者、保育実践についての理解も深めながら、園の社会的役割、地域や他機関との連携の視点にも着目する。併せて、理論として紹介した内容について、演習も取り入れた体験による学びの機会も楽しんでいただけると幸いです。

終盤には、今の自分自身が子どもたちにどのような支援をすることができるのかについて、その具体を挙げるべく何らかの力を習得することを到達目標とする。

授業計画と内容

- 第1回 ①「乳幼児期の子ども理解 ～あそびと保育～」 ②「教育・保育」における支配性についての認識
- 第2回 ①子どもの生活と子どもの権利条約 ～保育の役割、保育者の役割、保護者連携(支援)～
- 第3回 ①あそび体験がもたらす「認知能力・非認知的能力」の獲得 ②幼児期の振り返りと省察
- 第4回 ①わが国の保育の基本原理解 遊びによる保育/環境による保育/個と集団の保育 ②保幼小⇄中学校⇄高等学校⇄大学⇄社会の連携 ③保護者支援 ④地域連携 ⑤SDGS ⑥冒険遊び場
- 第5回 生きていく土台の保障と保育 ①脳:概念形成と言葉
- 第6回 生きていく土台の保障と保育 ①五感を耕す
- 第7回 生きていく土台の保障と保育 ①恒温の獲得
- 第8回 生きていく土台の保障と保育 ①生活リズムの獲得
- 第9回 生きていく土台の保障と保育 ①運動発達の機会の保障と獲得/空間認知力の獲得 ②基本的生活習慣の習得
- 第10回 子ども理解と支援・支援体験 ①運動あそび体験 ②体験をとおした支援の具体
- 第11回 日本の保育制度の理解 ①制度としての「保育所/幼稚園/認定こども園」②保育内容(5領域)③10の姿
- 第12回 子ども理解と支援・支援体験 ①お散歩マップ作成をとおしたこども支援の具体 ②実地踏査 ③子ども理解と省察 ④手法と視点 ⑤マップ作成上の構想・ねらい・方法等

第13回 保育現場と研究の一端の紹介 * 保育者の登壇を調整予定
第14回 ”今”を楽しみ、”今を繋ぐ楽しみ” のバトンを繋ぐ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業では、授業時にVTR等の視覚的教材や授業記録・保育記録等のドキュメントを用いて「子ども理解」や「保育(実践)」を巡る課題等をトピックとして取り上げ進める場合もあれば、いわゆる反転授業等を想定して、授業で扱う上記資料等(文献や新聞記事等を含む)について読み込み、課題を作成の上授業に臨むことを求める場合もあります。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	20% 講義内容を理解したうえで、それを基に自分の考えを理論的に表現できているかを評価する
レポート	40% 基本的に毎回の講義後にレポートを作成し提出。講義内容の理解と認識に係る視点と、自分の体験や思考を踏まえた表現ができているかを評価する
平常点	40% ・授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基礎点とする ・授業形態には演習様式も取り入れるために、基本的に授業への出席を求める
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

演習授業も取り入れるために、基本的に授業への出席を求めます。体調不良や公欠・就職活動などで欠席された場合には、その後の学びをスムーズに進めるために、当該学生さんとの話し合いにより関連課題を実施いただきます。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

限定したテキストは使用しない。各回に必要なレジュメや資料を配付し、適宜参考文献も紹介する

参考文献その1:『演習 保育内容『健康』』井狩芳子著/萌文書林

参考文献その2:『『発達障害』と間違われる子どもたち』/成田奈緒子著/青春書房

参考文献その3:保育所保育指針/厚生労働省、幼稚園教育要領/文部科学省、幼保連携型認定こども園教育・保育要領/内閣府・文部科学省・厚生労働省

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 教育学特講(2)**担当教員： 須藤 康介**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水6

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N409

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:5

更新者：AD0078

更新日時：2025-11-17 18:16:5

授業形式

すべての回を対面で実施予定。

履修条件・関連科目等

卒業研究で質問紙調査を実施する可能性がある学生、公開されている調査データの分析を行う可能性がある学生は、本授業の履修を推奨する。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

児童・生徒を対象とした質問紙調査(いわゆるアンケート調査)の実施方法を学ぶとともに、調査で得られたデータを分析するための基礎的な手法を身につける。

科目目的

神奈川県内の公立中学生約3000名を対象とした実際の調査データの分析を行い、各自が簡単なレポートを作成する。そして、教育現象をデータで描くという視点と技能を習得する。

到達目標

ケータイ所有と授業熱心度はどのように関連しているのか。性別によって友人関係はどのように異なるのか。家庭環境が子供の自己肯定感に与える影響はどのようなものか。教育調査はこれらの問いに対して、データで示唆を与えてくれる。卒業研究や将来の仕事で、児童・生徒を対象とした質問紙調査を実施・分析できるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育調査の意義
- 第3回 教育調査の流れ
- 第4回 サンプリングの論理
- 第5回 基礎統計量
- 第6回 クロス集計の原理
- 第7回 クロス集計の手順(実習)
- 第8回 クロス集計の工夫(実習)
- 第9回 論文の講読「対人能力」
- 第10回 論文の講読「反抗と自立」
- 第11回 レポート発表
- 第12回 分散分析の手順(実習)
- 第13回 相関分析の手順(実習)
- 第14回 総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業内容の復習が求められる。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 48% 授業内容に関する筆記試験を実施する。

レポート	30%	クロス集計を用いた簡易レポートを作成してもらう。
平常点	22%	毎回の授業内で小課題に回答してもらう。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業内での発表とそれに対する質疑応答を行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クlickカー
 タブレット端末

✓ その他
 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

PC教室で授業を実施し、レポート作成でもPC教室を使用する。

実務経験のある教員による授業

はい
 ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト プリントを配布する。
 参考文献 須藤康介・古市憲寿・本田由紀 2024『新版 文系でもわかる統計分析(電子版)』朝日新聞出版。

オフィスアワー

その他特記事項

中学校レベルの数学が必要になる。(高校レベルの数学は必須ではない)

参考URL

備考

科目名： 教育学特講(3)**担当教員： 河野 桃子**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N410

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:5

更新者：AD2021

更新日時：2026-01-11 11:13:0

授業形式

すべての回の授業を対面形式で行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、R.シュタイナー(Rudolf Steiner 1861-1925)によって提唱されたシュタイナー教育(Waldorfpädagogik)の思想と実践について、背景となる人智学の思想や、同時代の新教育運動等を参照しながら学んでいきます。シュタイナー教育については、しばしばきわめて特異な実践であるかのような紹介がなされますが、シュタイナーの哲学的な著作や同時代人に共有されていた思想との関連のなかで検討することで、一見、「風変わり」と見える実践の奥の必然性が見えてきます。本講義では、シュタイナー教育を、ステレオタイプのイメージから距離をとってさまざまな角度から考察し、そこから、シュタイナー教育に限定されない教育一般について得られる示唆についても探究していきます。

科目目的

シュタイナー教育の思想と実践について、視聴覚資料や体験活動も適宜取り入れながら、具体的なイメージをもって理解できるようになること。また、その理解を、人智学や同時代の教育思想と関連づけることで、多角的に深めていくこと。

到達目標

シュタイナー教育の思想と実践について、さまざまな教育思想や歴史的背景と関連づけることで、ステレオタイプのイメージを離れて理解できるようになります。また、過去の教育思想や実践を、自身や他の受講生の経験や感覚と照らし合わせながら吟味し、現在の教育への示唆を得られるようになります。

授業計画と内容

- 第1講 オリエンテーション—シュタイナー教育とは
- 第2講 幼児期の教育
- 第3講 気質論と十二感覚論
- 第4講 にじみ絵・ぬらし絵
- 第5講 シュタイナー教育のアート
- 第6講 児童期の教育①—芸術としての教育
- 第7講 児童期の教育②—権威と教育
- 第8講 思春期の教育
- 第9講 「癒すこと」と教育
- 第10講 「見えないもの」と教育
- 第11講 「スピリチュアリティ」と教育
- 第12講 シュタイナー前期思想と後期思想の連続／非連続
- 第13講 倫理的個人主義からシュタイナー教育へ
- 第14講 総括・まとめ—シュタイナー教育の視点から教育を考える

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回の授業で提示する参考文献から関心をもったものを読み、期末レポートの作成に役立てること。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	期末レポートでは、提示された問いを理解した上で、その問いに対する応答を論理的に書けているかどうかを評価します。
平常点	50%	毎回のリフレクションペーパーでは、授業内容や他の受講生の意見を踏まえた上で、自身の考えを書けているかどうかを評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

各回のリフレクションペーパーの内容からいくつかピックアップし、次の授業時にクラス全体で共有した上で解説を行います。(ペーパーに書くコメントについては「公開不可」を選択することも可能です。) 質問に対する応答もその時間に行います。授業内で、期末レポート作成のためのポイントを提示します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業の内容に関連する問いについてのグループワークを行い、その成果をクラス全体で共有、考察します。適宜、授業テーマに関わる体験活動を行います。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。
毎回のレジュメ等は、授業時に配布します。
参考文献については、レジュメ上で提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：教育学特講(4)

担当教員：堀川 修平

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：水3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-ED2-N411

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:56:0

更新者：AD1727

更新日時：2026-01-12 12:30:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業は、私たちの身のまわりに存在しているジェンダー／セクシュアリティ問題について、じぶんごととして捉えることができる力、そしてそれらを解決するための力を養っていただくことを目的とします。そのために、私たちを「種としてのヒトから人間としてのひと」へと育て養う「教育」(必ずしも、学校教育だけが教育ではありません)、とくに「包括的性教育(Comprehensive sexuality education)」の可能性に着目しながら学びを深めていきたいと思えます。

【授業の概要】

1. ジェンダー／セクシュアリティといった〈性〉に関わる差別問題を反省的にとらえる契機を与え、省察的な意見をもてる内容とします。
2. 性の多様性、「らしさ」の強要、LGBT市場における包摂と排除といった現代的諸課題について、具体的ケースを示しながら検討をしていただきます。
3. 本授業担当教員が専門としている「包括的性教育」を中心に授業を深めます。
4. 本授業は個人ワーク・グループディスカッションを取り入れ、積極的に教員と学生、学生同士での交流を行います。単に受動的に知識を吸収し、座っていればよい「座学」ではありません。

科目目的

この科目は、ジェンダー・セクシュアリティの観点から人間の多様性についての学識と思考力を修得することを目的としています。

到達目標

本授業の到達目標は以下の3点です。

- ・「ジェンダー公平」とは何かを歴史学・社会学的な観点から理解することができる。
- ・「ジェンダー公平」を実現するための教育(学)の成果と課題について考えることができる。
- ・ジェンダー／セクシュアリティに関する差別問題が身のまわりに存在することを理解できるよう、日常的な関心を形成し、意見を述べるができるようになる。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション～「多様性」とは何をさす言葉か？
- 第2回 「教育」とは何か？～発達可能態としての人間
- 第3回 ジェンダーの視点・性の多様性の視点(1)機会の平等・結果の平等と公平性
- 第4回 ジェンダーの視点・性の多様性の視点(2)「ジェンダー」とは何か？
- 第5回 ジェンダーの視点・性の多様性の視点(3)「性の多様性」「SOGIESC」とは何か？
- 第6回 ささまざまな人間関係を考える(1)「友達」と「恋人」の違いはどこにある？
- 第7回 ささまざまな人間関係を考える(2)「恋愛」のアタリマエを解きほぐす
- 第8回 良好な人間関係を築くためには？(1)「暴力」とはなにか？
- 第9回 良好な人間関係を築くためには？(2)「暴力」を乗り越えるためのアクティブバイスタンダー
- 第10回 人間関係に関わる情報に惑わされない～「デマ」とジェンダー・セクシュアリティ
- 第11回 包括的性教育とはなんだろう？(1)「包括的性教育」と「純潔教育」の違いとは？
- 第12回 包括的性教育とはなんだろう？(2)「性教育バッシング」～政治と性と生の関係性～
- 第13回 グループディスカッション～わたしたちが、今、始められることとは？
- 第14回 まとめ～「涓滴岩を穿つ」ために

※以上は、昨年度実施した内容です。受講者人数や受講者の習熟度と照らし合わせながら授業を進めていきますので、各回の内容は変更の可能性もあります。予めご了承ください。

※初回オリエンテーション・第2回の授業では、特に授業序盤における皆さんの課題意識や習熟度の確認を行いますので、受講を予定している方は、積極的に出席するようよろしくお願いいたします。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	40%	ジェンダー・セクシュアリティ、包括的性教育についての学識を修得したかどうか、日本の性教育やジェンダー平等に関する課題を説明できるかどうかを評価するために、「文献精読レポート」、あるいは、「授業に関連する学習イベントへの参加レポート」などに取り組んでいただく予定です。
平常点	60%	毎授業後に提出する「学びと感想」を評価します。毎授業後にmanabaにて提出いただきます。コメントシート課題の内容をふまえて出席を確認します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件:出席率が70%に満たない者についてはE判定とします。成績(出席の捉え方も含む)に関しては、初回オリエンテーションで説明いたしますので、受講希望者は初回授業に必ず出席してください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
 - ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 - ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
 - ✓ タブレット端末
- その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

初回授業(オリエンテーション)にて、準備いただく教科書を指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

※この授業では、“社会におけるすべての人の〈性〉に関する抑圧の解放を目指すために、多様性を前提とし、性の差別や偏見から自由になるための視点”を大切にしながら、現代社会における「差別」問題について考えていきます。また、社会にすでに存在している差別に関する内容として、「暴力」や「生と死」に関わる内容を取り扱うことも前提としています。

※本授業では、性別や障害、人種民族やルーツといった、あらゆる「社会的マイノリティ」に対する差別は認めません。差別言動が行われた場合(コメントシート内、あるいは学生間でのディスカッション内など)は、退出ならびに受講の取りやめを求めることがあります。教員と学生、学生同士の交流を積極的にしていただきますので、他の受講生の学習権の侵害がないように参加していただきたいと思います。

※グループディスカッションや個人ワークなど、受講者の皆さん(皆さん同士)で積極的に学びを深めていただく機会が多い授業です。着座していれば単位が取得できる授業ではありませんので、その点をご理解いただき受講してください。

※受講者人数や受講者の習熟度と照らし合わせながら授業を進めていきますので、各回の内容は変更の可能性もあります。予めご了承ください。

※初回オリエンテーション・第2回の授業では、特に授業序盤における皆さんの課題意識や習熟度の確認を行いますので、受講を予定している方は、積極的に出席するようよろしくお願いいたします。

参考URL

<https://researchmap.jp/horikawa-shuhei>

備考
